
魔弾の王と戦姫

クヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔弾の王と戦姫

【Nコード】

N5030T

【作者名】

クヤ

【あらすじ】

魔弾の王と戦姫。ザイアンの最後の描写が少し物足りなかったの
でなんとなく書いてみました。あまりうまくありませんが似たよう
なこと思っただ方はどうぞ読んでやってください。 原作読んでない
と意味分かります。

（前書き）

魔弾の王と戦姫 p274あたりからになります。

正直原作読んでないと本当にいみわかめだと思つのでご注意ください。
い。

つたない文章ですがどうぞおひとつ。

ザイアンは恐怖していた。

今まで馬鹿にし、軽蔑してきた弓に。

弓の使い手など罪人かへたくそであると嘲笑してきた弓に。

今、どうしようもなく恐怖していた。

新たに矢をつがえんとするティグルに。

頬を伝い、冷や汗が滴り落ちる。

——自分は此処で死ぬのだろうか。今まで馬鹿にし侮ってきた相手によって。

半ばあきらめを感じてしまうほどに、恐怖が顕れいである・・・。

そのとき、喚声を上げ、自身の配下たちが動いた。

ザイアンを守るべく土煙を上げ猛然と馬が駆けてくる。

——ただ、まだ俺は死なない！

配下の上げる土ぼこりが頼もしく見え、萎えかけた心に再び火を入れる。

すべては死なないために。

だが、その動きを黙って見ているほどジスタート軍は甘くはなかった。

ジスタート軍とテナルディエ軍が激突する。

「ザイアン様！お早く！」

体を支えられ、衝突の混乱の中助けられる。

——俺はまだ生きている。

恐怖から来るものか、安堵から来るものかは分からなかったが体が震えていた。

混乱の中、ティグルはジスタート兵に守られ後方へと消えていった。そちらへ戦姫が駆けて行ったのも見えた。

早く逃げなければ、焦燥ともつかぬ、恐怖に後押しされ最も安全にここから去ることができる飛竜のもとへと急ぐ。

「どけ！どけ！」

早く、一刻も早くここを去らなければ、自分はティグルに殺される。その焦りが正常な判断を失わせザイアンを急きたてる。

飛竜へと飛び乗ると早く、速く飛びたてとその行動を急かす。

コウモリのそれに酷似した翼をはためかせ、浮かび上がり始める。もつともつととさらに急かし飛竜は急浮上を始める。

体へと絶大な負荷がかけられるが、そんなことよりも今すぐにここを離れたかった。

地上では急かしたことによる通常より強い風圧により、その副次的効果で飛翔を妨げるものはなかった。

剣も矢も届かない高空へとその身を置くとようやくザイアンは人心地つく。

「この俺に此処まで恥をかかせるとは許さん！許さんぞヴォルン！貴様に必ず復讐してやる、覚えておけ！」

此処まで高空であると聞こえるとは思わなかったが言わずにいることができなかった。

はあはあといがらせた肩を落ち着かせ。

飛竜へと移動を命じた。

が、そのとき獣の咆哮にも似た轟音が響く。

「ひいつ、な、なんだ！」

驚くのもつかの間激しい風を感じ、飛竜が体勢を崩す。

「うわああああああ！！！」

激しい揺れに見舞われたずなを握ることしかできないザイアンは絶叫する。

やがて、揺れが治まると

「な、なんだあれは！？」

雲がその形を変えていた。

首を動かし地上を見ると、視線が集まっている場所があった。

「馬鹿なっ今の矢だとも言うのか！」

視線の先には弓を放った体制のティグルがいた。

「うそだ！うそだ！うそだ！うそだ！！！」

絶叫し自身の考えを否定する。

だがそれとは別に恐怖にかられた体は早くここから離れると、竜を急かす。

だんだんと戦場から離れたす飛竜。

もつともつと早く、冷や汗でもうザイアンの背中はしとどに濡れていた。

急かす中ザイアンはそれを感じた。

それは生物の持つ生存本能が感じさせたのだろう。

強大な力がティグルの矢がこちらに迫っていると。

生きるためムダかもしれないと思いつつもザイアンは竜を駆る。

そのとき、凄まじい衝撃が身を貫く。

吹き飛ばされないようにするので精いっぱいだった。

何が起こっているか分からない。ただ生きるため竜にしがみつく。

それがどれくらいかったのかは分からない。

刹那であったのかもしれない、だがなん十分もそれにさらされていたような気もした。

終わったかと思えばそれも安心できる要素ではなく。

腹部をうがたれた飛竜が落下を始める。

ザイアンは少しでも生き残る確率を上げるため、眼についた沼へと飛竜を動かす。

わずかな力を振り絞り飛竜はザイアンの願いに答えんとする。

蛇行しながらもその方向へ向かい、やがて力尽きた。

運よく沼の上には到達することができたがこの高さでは助からないだろう。

「くそっ！くそっ！ヴォルーーン！！！」

落下しながらもティグルへと怨嗟のこもった雄たけびを上げる。

そしてあたりに鈍い音が響き渡る。

波紋を起こす沼から、浮かび上がるものはなかった・・・。

（後書き）

ゼロ魔の方は日があいたらなんだか書けなくなりまして・・・少し書いては全けし中です。

気力があつたら待っててやってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5030t/>

魔弾の王と戦姫

2011年5月25日00時46分発行